



安平町追分SL保存協力会

鳥取県若桜町と鉄道博物館視察研修事業

安平町追分SL保存協力会は、旧追分町の歴史とともに歩んだSLを保存すると同時に、SLの公開展示や鉄道資料館の管理を行うなど、鉄道員が中心となり後世に安平町の鉄道に関する歴史を残す活動を行っています。

そんな、保存協力会の会員が10月に圧縮空気により自走するSLを勉強に、鳥取県若桜町等を視察してきました。

①視察先の選定

保存協力会では、鉄道資料館に展示しているD51機関車を屋外に出す索引動車さきいんについて、近い将来には耐用年数も過ぎ車庫から屋外に移動することができなくなることを危惧していました。

蒸気を使用しないで、圧縮空気により自走するSLを所有している鳥取県若桜鉄道の技術を活用できれば観光振興にもつながると考えて、視察先を選定しました。

②研修内容

若桜鉄道の専務から、C12機関車を圧縮空気により自走させるための仕組みについて説明を受け、そして、実際に圧縮空気により自走するC12機関車を見学しました。

圧縮空気を走行用と制動用の2系統に分けて、走行用は機関車のボイラー内に入った圧縮空気を加減弁の開位置でシリンダー内に圧縮空気が入りピストンを動かし走行します。低圧のため走行に必要なバルブ以外は蒸気分配箱で閉塞していました。

制動用の空気圧縮機は蒸気分配箱で閉位置とし、直接元空気溜に圧縮空気を入れ、ブレーキ弁でブレーキ管を減圧し、ブレーキシリンダーが作用し制輪子が動輪に密着し停止するという仕組みとなっていました。

③今後について

「鉄道のまち」として栄えただけに、追分機関区の名が至るところに出てきたといいます。

今後は、鉄道資料館に保存展示しているD51機関車に圧縮空気のシステムを応用できるか、保存協力会や検査業務に携わった方との検討会を開催し、その可能性を探っていききたいとのことです。



ボイラー内の圧縮空気をブローしている様子



鳥取県若桜鉄道にて

『ほほえみづくり事業』助成事業って何？

町内の団体・グループ等が行う事業や活動を支援するため、町から助成金を交付する制度です。

内容は、「くらしの笑顔が広がるぬくもりと活力と躍動のまちづくり」を実現するための、地域間交流事業を中心としたソフト事業・まちづくりを推進するための町外への先進地研修事業等への助成をしています。

まちづくりの支援制度として誕生した「ほほえみづくり事業助成制度」を多くの団体・グループで活用してください。

この機会に、各種団体・グループ等の総会や役員会でも利用について検討してみたいかがですか。
問合せ まちづくり推進課 ☎@ 2514